

2 学年の総合探究〈課題探究〉計画について

【2 学年】課題を見つけ探究する

- 協働学習の中で、個人の思考力も育成する。

研究の実践
論文の完成

個人レポートの
作成

課題研究発表

シェアリング
研究成果発表

2 学年

研究テーマ
の検討

文献調査
グループ協議

＜保健＞レポート作成 ＜国語＞ブックレポート
＊ 昨年同様に実施時期を調整しながら計画・実施

〈課題探究〉で実際に探究する

1 学年時に実施した課題発表を、より深めた内容で考察する。中間報告で相互確認することで、より深い学びを促す。

1 学年を聴衆とし、研究の成果を発表する。
(学年を横断した学び)



〈課題探究〉で実際に探究する

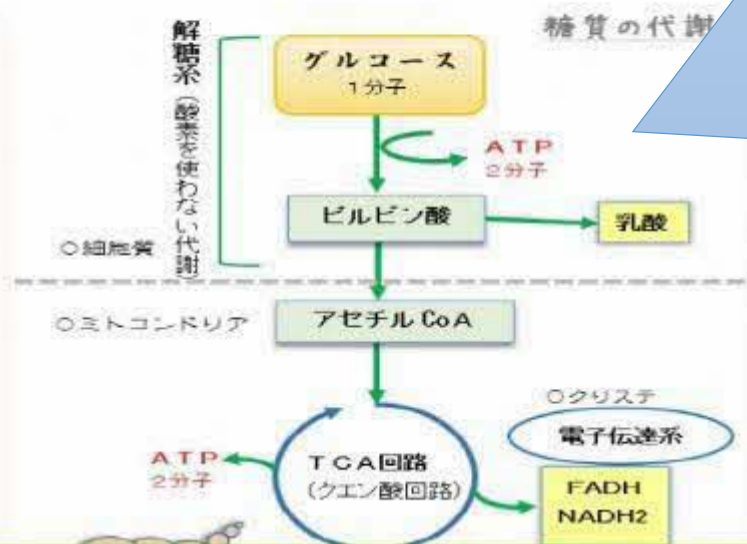
発表内容を深めるために個人レポートを作成する。
協働学習で身に付けた思考力を身に付けさせるだけではなく、
情報分析・判断力のさらなる育成につなげる。

体の疲れ

1 研究背景

自分は生れつき皮膚が弱く部活で夏に大会があるのだが、夏はじめじめして皮膚が弱い人にとって「かゆさ」が増す時期でもあり、直ぐにバテてしまったり眠くなったり筋肉の疲労、肺が苦しいなどの症状を引き起こす。一番暑いのは夏休みの間なので授業ではそこまで困ることはない。よく「睡眠が足りない」と親に言われるが、長く寝てそれはそれで疲れてしまったという経験をして、どうすれば上手に疲れが取れるのだろうと思った。

2 研究目的・意義



論文と同形式
背景・目的意義・手法・考察
結論及び展望の流れ

3 学年の「総合探究」〈探究ゼミ〉計画について

【3学年】学問探究

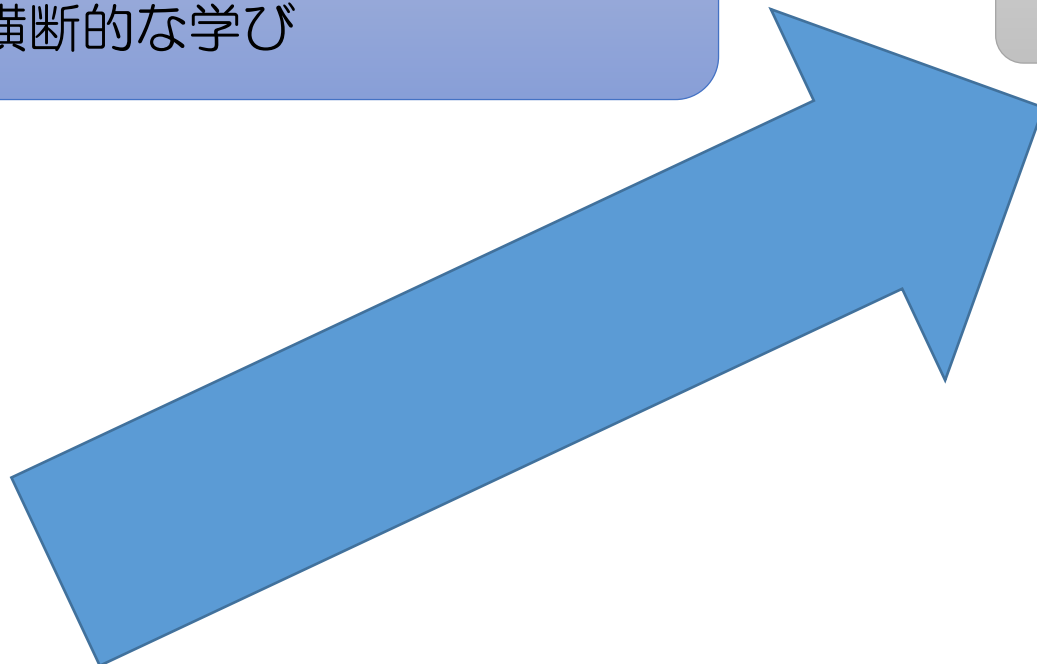
- 探究の深化を目指す。
※教科等横断的な学び

学問探究

教科等横断・
探究の深化

3 学年

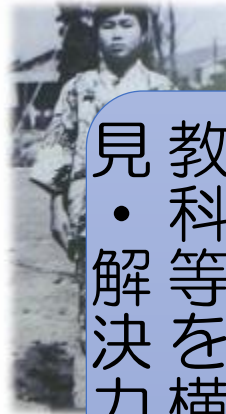
探究ゼミ



〈探究ゼミ〉で深化を目指す

コース	文A	文B	文C	理D	理E	理F	理G	医学H	医療I
探究内容	文学 教育 人間	国際法	経済	物理・ 工学	化学	生物	数学	医学	看護 医療系

Sadako Sasaki
(January 7, 1943-
October 25, 1955) was
about one mile away
from where the
atomic bomb was
dropped on August
6th, 1945. She was
two years old at that



(例) 【文A】英語・平
和学習・歴史・倫理など
教科等を横断し、課題発
見・解決力を育成する。

探究ゼミ① 文A Atomic Weapons Hiroshima

- あなたの立てた問いはどんなものですか。
- 〈対話〉によってなにか変わったことはありますか。
- 今回のゼミの感想を聞かせてください。

• 平和を願う人（または国民の安全を守ろうとする人）が「政治を指揮しているはずだが、なぜ「抑止論」というような豪断による手受を取ったのか。

• 政治のためになぜ「真実を隠さなければならぬのか」。(早稲など)

• マンハッタン作戦に関わった人の話を聞いて、「人間らしい」と思っている自分がいた。あとになって自分の責任に気づき後悔する人。

• 戦争は犠牲者同様に正統化しなければならぬ。尊重のために（はるもみちなど）

• 対策のために技術的抑制を講ずるための議論をするための

• 武力ではなく対

進路によるグループ分けを実施し、学びとともに進路実現に向けた学びの深化を目指す。



被爆翌朝の
広島市
中心部

〈探究ゼミ〉で深化を目指す

コース	文A	文B	文C	理D	理E	理F	理G	医学H	医療I
探究内容	文学 教育 人間	国際法	経済	物理・ 工学	化学	生物	数学	医学	看護 医療系

『生命に関する倫理について考えよう』

質問1: 2010年、ノーベル生理学医学賞はこの写真中央の女性に関する研究に対して授与されました。

さて、その研究とはどんな研究なのか？グループで話し合って予想を立ててみてください。



©2010年、ノーベル生理学医学賞受賞者：Lorraine S. Huxley



生命の倫理

解剖実習

倫理と生物の融合により、生命の尊厳を知り、豊かな人間性を育成する。



3 学年 〈探究ゼミ〉 の自己評価ルーブリック

	①情報を扱う技能 【知識及び技能】	②論理的・批判的・創造的思考力 【思考力・表現力・判断力等】	③課題を発見・解決する力 【思考力・表現力・判断力等】	④情報を分析・判断する力 【思考力・表現力・判断力等】	⑤表現する力 【思考力・表現力・判断力等】	⑥主体的に実践する力 【学びに向かう力・人間性等】
規 準	3つのゼミの情報を結びつけ思考する姿勢について	多様な情報から、自分の意見を確立する姿勢について	テーマから課題を発見しようとする姿勢について	課題を分析や統合を行う姿勢について	課題を理解し、その内容を伝えようとする姿勢について	積極的に探究せよという姿勢について
4	3つのゼミで身につけた情報を、つなぎ合わせ理解し自分なりの応用方法を考えた。	多様な課題に関連する情報を整理して、自分の考えを他者に明示することができた。	選 択 した 研 究 テーマから、社会的にどのように活かすかを考察できた。	た 上 で、 解 決 の 方向性を思考できた。	しそれを伝えることができた。	べ積極的に関わろうとした。
3	3つのゼミで身につけた情報を、つなぎ合わせ理解した。	多様な課題に関連する情報を整理して、自分の意見を持つことができた。	選 択 した 研 究 テーマから、社会的な課題を見いだすことができた。	課題の因果関係を理解し、その本質を見いだした。	課題に対して、自分で整理した上で、伝えることができた。	課題に対して、自分で意思を持ち、意見を積極的に述べた。
2	3つのゼミでそれぞれ得た情報を理解した。	多様な課題に関連する情報を整理した。	選 択 した 研 究 テーマから、課題を見いだそうと努力した。	課題の因果関係を理解し、その本質を見いだそうと努力した。	課題の内容を、理解し伝えようと努力した。	課題に対して自分の考えを持ち関わろうと心がけた。
1	3つのゼミでそれぞれ得た情報を理解しようとしなかった。	課題に関連する情報を考えることができなかった。	研究テーマを聞くだけだった。	課題の因果関係や趣旨を見いだすことができなかった。	自分の考えを相手に伝えることができなかった。	他者に誘発されての行動が多かった。

育成を目指す16の資質・能力
についてのルーブリックを作成

2 学年家庭学習状況踏査（11月実施）

平日の 家庭学習時間	H28年度	H29年度	H30年度	R元年度	R2年度	R3年度	
1時間未満	11.3%	12.1%	16.0%	11.6%	9.1%	7.1%	減少
1時間以上～ 3時間未満	70.8%	64.6%	71.7%	71.4%	56.0%	59.7%	
3時間以上～ 4時間未満	16.0%	19.3%	10.7%	14.2%	27.4%	26.3%	増加
4時間以上	1.9%	4.1%	1.6%	2.8%	7.5%	7.0%	

総合的な探究の時間
先行実施年度

3 学年探究ゼミの自己評価ルーブリック

	①情報を扱う技能 【知識及び技能】	②論理的・批判的・創造的思考力 【思考力・表現力・判断力等】	③課題を発見・解決する力 【思考力・表現力・判断力等】	④情報を分析・判断する力 【思考力・表現力・判断力等】	⑤表現する力 【思考力・表現力・判断力等】	⑥主体的に実践する力 【学びに向かう力・人間性等】
規 準	3つのゼミの情報を結びつけ思考する姿勢について	多様な情報から、自分の意見を確認する姿勢について	テーマから課題を発見しようとする姿勢について	課題を分析や統合を行う姿勢について	課題を理解し、その内容を伝える姿勢について	積極的に探究ゼミに取り組もうとする姿勢について
4	33.0%	50.8%	37.5%	41.9%	41.3%	46.9%
3	47.0%	42.1%	43.8%	44.8%	44.6%	40.2%
2	19.3%	6.0%	16.5%	11.5%	12.9%	12.2%
1	0.8%	1.1%	2.2%	1.9%	1.1%	0.7%
平均点	3.1	3.4	3.2	3.3	3.3	3.3

「論理的・批判的・創造的思考力」
に特に高い評価が見られる

3年間の学習成果が思考力に強く表れている

2 資質・能力の評価方法について

～観点別学習状況の評価の充実～

3 学年 〈探究ゼミ〉 の自己評価ルーブリック

	①情報を扱う技能 【知識及び技能】	②論理的・批判的・創造的思考力 【思考力・表現力・判断力等】	③課題を発見・解決する力 【思考力・表現力・判断力等】	④情報を分析・判断する力 【思考力・表現力・判断力等】	⑤表現する力 【思考力・表現力・判断力等】	⑥主体的に実践する力 【学びに向かう力・人間性等】
規 準	3つのゼミの情報を結びつけ思考する姿勢について	多様な情報から、自分の意見を確認する姿勢について	テーマから課題を発見しようとする姿勢について	課題を分析や統合を行う姿勢について	課題を理解し、その内容を伝える姿勢について	積極的に探究ゼミに取り組もうとする姿勢について
4	33.0%	50.8%	37.5%	41.9%	41.3%	46.9%
3	47.0%	42.1%	43.8%	44.8%	44.6%	40.2%
2	19.3%	6.0%	16.5%	11.5%	12.9%	12.2%
1	0.8%					0.7%
平均点	3.1					3.3

育成を目指す16の資質・能力とその根幹の3観点をどのように評価するか。

カリキュラム・マネジメントにおける評価の検討

資質・能力に対しての観点別学習状況の評価
の検討



2021.4 本校に「評価ユニット」を設置



2021.9「評価ユニット」による第1回研修会
『学習評価の基礎知識 評価の改善と方向性』
H31教育課程部会報告を踏まえ、3観点の
評価の概念を教員全体で共有する。

カリキュラム・マネジメントにおける評価の検討

2021.10「評価ユニット」による第2回研修会
『3観点の評価と評定に関する実践事例』
・全国の学校(小中学校を含む)実践事例の紹介



教員の**ブレインズオン状態**を形成 (brains-on)
理解しようと熱心に考え、もがいている状態

指導と評価の一体化

16の資質・能力

授業改善

教務部が主体となり評価の在り方を考察

教務部が主体となり評価の在り方を考察

学力の 3要素	16の資質・能力	評価A ◎ 十分満足できる ～できる	評価B ○ おおむね満足できる ～しようとしている	評価C △／× 努力を要する ～できていない
「知識・技能」	各教科の知識・技能	授業で扱う範囲に留まらず一般教養を含めた広範な知識・技能を持っている。	授業で扱う範囲に関する知識・技能を持っている。	授業で扱う範囲に関する知識・技能が不十分である。
	異文化の理解	異文化に対して興味を持ち、一般教養を含めた広範な知識を持って理解を深めることができる。	異文化に対する興味を持ち、理解しようとしている。	異文化に対して興味を持つことが出来ない。
	多様性の理解	多様性を認識し、自らの行動及び思考の変容に対して柔軟に考えることができる。	多様性を認識し、自らの行動及び思考が変容することを理解出来る。	多様性について認識しようとしているが、変容することを理解出来ない。
	傾聴する技能	他者の意見に耳を傾け、自らの行動及び思考の変容に対して柔軟に対応することができる。	他者の意見に耳を傾け、自らの行動及び思考が変容することに対応することができる。	他者の意見に耳を傾けるが、自らの行動及び思考が変容することが出来ない。
	コミュニケーションの能力	コミュニケーションの重要性を認識し、積極的に他者と連携をとることができる。	コミュニケーションの重要性を認識し、実践することができる。	コミュニケーションの重要性を認識しているが実践することが出来ない。
	情報を扱う技能	分析・判断すべき情報に対して正しくかつ分かりやすく処理する能力を持っている。	分析・判断すべき情報に対して正しく処理する能力を持っている。	分析・判断する情報に対して的確な処理をすることが出来ない。

学力3要素を「育成を目指す16の資質・能力」に細分化したルーブリックの作成

ループリックをすべての教科が共有

副教材	4 STEP I + A(数研出版)	
科目の目標	数と式、図形と計量、二次関数 びデータの分析について理解 せ、基礎的な知識の習得と技能 の育成を図り、事象を数学的に考察 し、数学のよさを認識するとともに、そ の活用する態度を育てる。	
教科で育成 を目指す資 質・能力	教科の知識・技能 傾聴する技能 表現する力 論理的・批判的・創造的思考力 主体的に実践する力	教務部フォルダ内の年間学習指導計画等貼付データにある 学習指導要領ファイルから、科目の目標を貼り付けてくだ さい。学校設定科目も同様のフォルダにあります。 何を理解しているか、何ができるか 多様性の理解 傾聴する技能 ②【思考力・判断力・問題解決力】 理解していること ③【学びに向かう力・人間性】 どのように社会・ よりよい人生を送る
評価の観点	知識・技能	思考・判断・表
評価の趣旨	・数学における基本的な概念や原理・法 則の理解と活用 ・数学的表現を用いて事象を整理・説明・的確に表 現する力を身に付けている。	・数学のよさを認識し、数学を活用して 粘り強く考え、 数学的論拠に基づき判断しようとする。 ・問題解決の過程を振り返って評価・改 善を図る。

育成を目指す 16 の資質・能力
の中から科目で育成するものを
いくつか Pickup してください。

「教科の見方・考え方」を
「育成を目指す16の資質・
能力」に変換

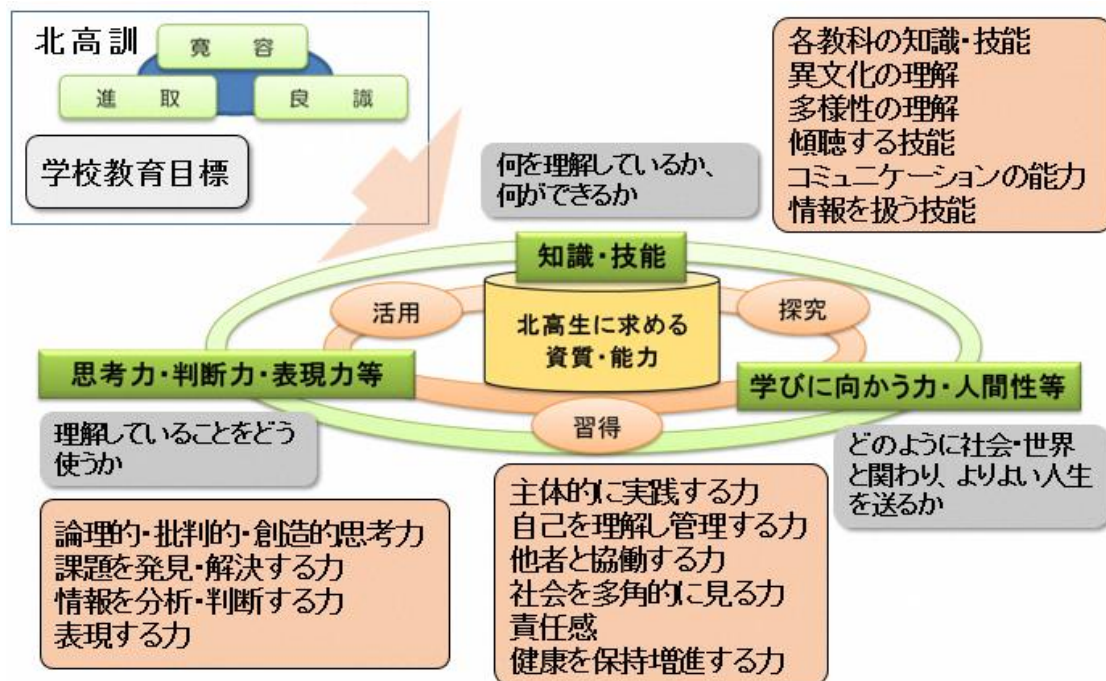
ファイルサーバーにある「各教科の3観点」
ファイルから貼り付けてください。

探究を含む全教科の「視点」が共有

学習評価と観点の欄に記入するものを含
めて簡易書きしてください。(3つの観点を)

教科等横断的な「視点」が形成

育成を目指す資質・能力の評価から3観点の総合評価



教科に適する
資質・能力を、
必要と思われる
時期・単元・時
間で評価する。

資質・能力から学習状況を評価

観点別学習状況の評価 (各観点の評価)		評価および評定		
	評価		評価	評定
十分満足できる	A	特に高い程度に達成している	10, 9, 8	5
		高い程度に達成している	7, 6	4
概ね満足である	B	概ね達成している	5, 4	3
		達成が不十分である	3, 2	2
努力を要する	C	達成が著しく不十分である	1	1

研究指定の取組について

「探究」を軸とした学びの関連付けにより、本校生徒の**資質・能力の向上**を図る。(全体像の共有化)
＝「総合的な探究の時間」だけではなく、教科指導・行事・進路指導を通じて、「いつ」「どの時期に」「どのような方法で」「どの能力を育成するか」を**可視化**して教員・生徒間で**共有**を図った。

ポートフォリオを活用し、学びのフィードバックを実施。
＝探究の深化と位置付けている、3年生の「総合探究〈探究ゼミ〉」において**思考力・判断力・表現力等の育成**において生徒の**高い自己評価**が得られた。

研究指定の取組について

学習評価の在り方

= 評価ユニットを結成して、校内研修会を2回実施することで、教員の「**評価の視点**」を共有。
今後は教務部を中心に、より具体的な内容を考察する。

研究協議会の実施

= 令和4年1月に「総合的な探究の時間」に関する研究発表大会を実施。本校における取組を発信した。
今後も実践事例を配信する中で**北高Standardの確立**を目指す。